



西有家中 No6

令和5年 8月22日
南島原市立西有家中学校
校長 本多 洋二

夏休み終盤！平和集会は9月1日に実施予定！

夏休みも残り9日間になりました。生徒の皆さんは、これまで夏バテせずに計画的に過ごせたでしょうか。残りの9日間も元気に計画的に過ごし、2学期に備えてほしいと思います。また、8月9日の登校日を台風の影響で中止にしました。それに伴い、平和集会もできませんでした。生徒たちは、9日の祈りの日に向けて練習に一生懸命取り組んでいましたので、9月1日始業式の午後からカムスで実施します。実行委員の皆さんを中心に劇や平和についての調べ学習、平和宣言等を発表します。平和の大切さについて深く考える機会にしてくれると思います。保護者の方々も時間の都合がつかれる方はご観覧ください。

快挙！県中総体サッカー競技初優勝！

去る7月22日・23日・24日に開催された長崎県中学校総合体育大会のサッカー競技において、本校サッカー部が強豪校を破り、見事優勝し、九州大会に出場しました。生徒たちは、やればできるということを身をもって示してくれました。九州大会では、鹿児島県代表の中学校に負けはしましたが、大健闘でした。よく頑張りました。



＜賞状と県優勝旗の授与＞



やればできるー！

県中総体試合結果

去る7月22日・23日・24日に開催された県中学校総合体育大会に西有家中からも4競技18名が出場しました。それぞれによく頑張っていました。各種競技の結果は次のとおりです

○女子バレーボール

1回戦 惜敗 対瑞穂中

○ソフトテニス個人戦

男子：永橋・城谷ペア 2回戦 惜敗



○硬式テニス競技（個人戦）

男子：古賀圭くん 2回戦 惜敗 ベスト8

○陸上競技（個人戦）

男子：西中陸上部全員出場し、全選手自己ベストを出し、健闘！

＜吹奏楽コンクール＞

7月30日（日）に諫早文化会館にて長崎県吹奏楽コンクール県央地区大会が行われ、西有家中からも出場しました。結果は、昨年同様、惜しくも銀賞でした。極度の緊張の中でしたが、生徒たちは一生懸命に演奏していました。演奏が終わって、会場の外に出てきた生徒たちは、皆やりきった表情で、笑顔だったのが印象的でした。よく頑張りました。



社会を明るくする運動弁論大会

去る7月25日(火)に社会を明るくする運動中学生弁論大会がありエコレジヨホールで開催されました。本校からも志岐彩花さんと森野枇依さんが出場し、努力賞を受賞しました。二人とも原稿を見ることなく、感情を込めた発表であり、感動的でした。よく頑張っていました。

私は、校長として、最優秀賞を二人には贈りたい気持ちでした。

○志岐 彩花さん「青と赤」

○森野 枇依さん「食べること」



ブレイクコーナー

自分の考えや人の受け売りです。
気軽にお読みください。

啐啄同時(そったくどうじ)

「啐啄同時」この言葉を御存知でしょうか。
もともとは、仏教用語で、禅の教えによくつかわれる言葉だそうです。

啐：鳥のひなが、卵から生まれ出ようとする時、卵の殻をつついて音を立てること。

啄：親鳥が外から卵の殻をついばんで破ること。

「啐啄同時」

この2つのことが同時に行われ、はじめて殻が破れひなが生まれること。この言葉は、卵の中のひなと親鳥の関係を表しており、両方が一致してひなが生まれる。「機を得て、両者相應じる得難い好機」という意味だそうです。

(右上へ続く)



九州大会の開会式で立派に選手宣誓するキャプテンの岩永詩朗君。堂々とした宣誓でした。

<おめでとう！>

○ソフトテニス夏季大会

男子 瀬川・松本ペア 優勝(県大会出場)

城谷・松野ペア 準優勝(県大会出場)

1年生の部 男子 松川・岩永ペア 優勝

女子 荒田・永橋ペア ベスト4

また、この言葉は、師弟関係や親子関係の在り方についても教えている言葉だと言われています。師弟関係では、弟子の修行が円熟したことに気づいて師匠が悟りの機会を与える。この場合、弟子も師匠の意思に応じる境地に立っていなければなりません。つまり、双方が意思相合することが大切なのです。

親子関係での「啐啄同時」とはどんな時でしょうか。親の指導と子どもの意識が一致した時、その指導の成果はあがります。今、指導する時期ではなく、もう少し待てば自然と身に付くこともあれば、今指導しないといけないのに、機を逃してしまい、身に付くことができない場合もあります。双方が一致した時に、その指導の成果は高まります。具体的な例として、こんなことがありました。『親と子どもが二人で歩いています。子どもが、ある家の庭を見て、「お花がとってもきれいだよ」と言いました。するとその親はスマホの画面を見ながら、「よそ見しないで前を見て歩きなさい。急いで帰るよ。」でした。』ここで、「ほんとだね。きれいだね。きれいな花に気づいた〇〇もすごいね。家でも花を植えてみようか。」と言葉かけをすれば、子どもは、さらに美しいものを美しいと感じる心を育てるのではないのでしょうか。